

議事録

件名	明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会 第2回 農産物等研究専門部会(概要版)
日時	平成26年10月2日(木)14:00~16:00
場所	明治大学黒川農場 本館1階 1-102 会議室
出席者	明治大学黒川農場 佐倉特任教授 セレサ川崎農業協同組合指導相談部 営農課長代理 木目田主任 神奈川県農業技術センター横浜川崎地区事務所 後藤勇主査 花き・加工労働チーム木下 川崎市麻生区役所企画課 蛭川課長補佐 藤江職員 川崎市経済労働局農業振興センター農業技術支援センター 小川主任 (事務局) 川崎市経済労働局農業振興センター農地課 古山保全係長 コンサルタント(URリンケージ 正司主幹、遠藤課長補佐、岸本)
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回農産物等研究専門部会 次第 ・第2回農産物等研究専門部会 座席表 ・第2回農産物等研究専門部会 メンバー表 ・里地里山保全利活用専門部会 第2回専門部会 説明資料(案)
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物等研究専門部会の平成26年度の活動報告 ・収穫祭との連携の案の確認 ・農と環境を活かした街づくり 黒川地区基本計画(案)の確認 ・平成27年度のデザイン祭(プレ)についての確認

1. 開会のあいさつ (農地課)

2. 座長からのあいさつ

【座長】 第1回目の会議では色々な取組み案が出た。それを、絞り込んでいながら、是非形のあるものにしていきたいと思うので、本日は活動の絞り込みの第一歩の会議になれば良いと考えている。

3. 平成26年度の活動報告(中間報告)及び収穫祭との連携について(資料説明)

＜平成26年度の活動報告(中間報告)の資料説明＞

＜収穫祭との連携についての資料説明＞

【農地課】 経過事項と今後の予定についてだが、経過事項については、各施設でこの資料のように色々な作物を試作的に作ってきた。今後は大きく分けると「女性農業者との「農産加工品の検討、開発、商品化検討」と、「生産組合黒川支部へ「提案会の実施」」の2つで、現在双方に働きかけ始めたところである。時期的に、今年度の収穫祭には間に合わないが、「来年度以降のイベントにつなげていくのか」や、「どのような進め方をしていくのか」などは、大前提として「黒川地域の連携」も考えていかなければならず、未だはっきりしていない。

【神奈川県】 小さな話だが、提案会を行う場所を明治大学にしてはどうか。

【農地課】 「夜に明治大学が使用できるのか」という課題はあるが、可能であれば明治大学が使用出来れば良いと思う。

【神奈川県】 この協議会の協定の中における「明治大学」とは、大学全体であるのか、明治大学黒

川農場なのか、先生たちなのか、学生まで含めるのか、場所なのかが分かりにくい。今後、農家の方と接点を持っていく上で、はっきりしておきたい。

【農地課】 基本的には明治大学と川崎市と黒川の連携であるが、農場の先生に座長になってもらっている事もあり、農場とのつながりは強い。協定自体は明治大学と結んでいるので、農場に限る訳ではない。ただ、協定を結んだ当初、「黒川に明治大学の農場が来たことにより、黒川の農家の方に対して、「明治大学が黒川に来て良かった」と思っ
て頂ける事をやらなければいけない」という話がある中、実際に進めていく段階では農場と行っていきたいと考えている。

【麻生区】 協定や覚書の中では対明治大学と契約を結んでいるので、明治大学がお持ちの資産として、農場も学生も資産の一部と見る事が出来る。したがって、明治大学で農業関係の先端技術等を研究されているものについても、その活用の観点から、ご協力頂けるものに関しては、ご協力して頂く事になる。

【神奈川県】 この取組みは農家の方が主体となると思うが、関係機関だけが動いているように見え、当事者が見えにくい。どのような人達に、考えたり話し合ったりした事を伝え、どう動いていってもらうかを、きちんと考えていかないと空回りしてしまう。

【農地課】 その事もあり、農産物等研究専門部会では、3年間かけてどのような方向性に持っていくのか、話を進めていく事になると思う。急いでも上手くいかない。生産支部の方には厳しい事を言われている状況もあり、そのような意味からも「どのような活動をしたのか」をきちんと提案して進めていなければならぬ。

【神奈川県】 ちなみに、黒川地区の生産支部のメンバーは何人くらいいますか。

【農地課】 50 数人で、その中できちんと農業を行っているのは半分くらい、あとの半分には全く農業を行っていない人も含まれている。

【神奈川県】 女性生産者の方々の組織の名称は何と言うのですか。

【農地課】 農協の柿生女性部の中の、よく会う7~8人のメンバーとの事でした。その中の一部メンバーからは、「今は聞きたい事はありません」と言われているが、若い方の中には、まだ加工品を行っていない方もいるので、そのような方たちにお話し
てもらいたいと思う。黒川を「加工品」で括ると、行っている人は2~3人しかいない。

【神奈川県】 「湘南ポモロン」を扱って頂いたのは大変ありがたいが、今年度、JAセレサ川崎のそ菜部で実証展示圃を設けて試作を行っており、来年度どうするかを決めかねているところである。将来的には普及を行っていく予定だが、来年度どのように広めるのか、迷っているところだ。この専門部会と農業技術支援センターと、協調して進めていければありがたい。現在ネックとなっているのは、種としての供給しかなく、苗として供給されていない点である。野菜を生産するそ菜部の人でも、トマトの苗を買ってしまっているという人が多く、育苗を行うハウスが無い人も多いため、農業技術支援センターの方に種を供給してもらい、「湘南ポモロン」の育苗を行う場所及び人を、川崎市や明治大学にご協力頂ければ、「湘南ポモロン」の苗の配布も可能になるのではない
か。

【農地課】 「湘南ポモロン」の種の販売は考えていないのか。

【神奈川県】 今のところ考えていない。県の種苗協働組合で採種とするという話も検討材料としてはあるが、まだ決まっていない。採算が合わないという話や、系統を選別し直し、別系

統とする話もある。

- 【農地課】 路地での栽培状況はどうだったのか。
- 【神奈川県】 路地での栽培も大いに「有り」だが、少し癖がある。施設栽培用の「湘南ポモロン」のマニュアルは作ってあるが、路地用のものは作ってないので、改定を考えている。そのような理由もあり、直ぐに黒川地域だけに広めるのは控えたい。
- 【農地課】 「湘南ポモロン」については、あくまでも第1回目の会議の中で「湘南ポモロン」の名前も挙がってきたので、扱ったというだけで、直ぐに広めるという事ではない。
- 【神奈川県】 そ菜部と普及と上手く組ませて頂ければ、お互いに利があると思う。
- 【農地課】 農家の評判はどうか。
- 【神奈川県】 良い。今年栽培した人は、また来年栽培すると言っている。お客様はついているので、その点はありがたい。
- 【農地課】 「湘南ポモロン」は生で食べられるのか。
- 【神奈川県】 生で食べる事は出来るが、美味しくない。加熱調理をしたほうが美味しく、トマトソースにするととても美味しい。
- 【農地課】 赤と黄色は混ぜて売るのが通常なのか。赤と黄色は同じ性質をもった種類なのか。
- 【神奈川県】 赤と黄色を混ぜて売っている事が多い。赤と黄色は味に若干違いがあるが、用途は同じである。
- 【農地課】 大きさはどのくらいか。
- 【支援センター】 10cm 位。
- 【神奈川県】 収量としては大玉と比べて少ない。
- 【農地課】 「湘南ポモロン」を使った加工品は出ているか。
- 【神奈川県】 商品としては出していない。自分で料理をする人が買っていき、自分で料理をする人でなければ買っていない。そして、買った人はリピーターとなる事が多い。今年、川崎市で試作を行ったが、単価を安くしすぎてしまったと。今後農業経営の中に入れて頂くためには、ある程度お金を稼げる作物としたい。
- 【農地課】 苗作りができれば、もう少し普及が進むということか。その時には県に種を提供してもらおう形になるのか。
- 【神奈川県】 種の供給は出来る。苗作りができれば、もっと普及出来ると思う。
- 【農地課】 「湘南ポモロン」は、県内全体、川崎市内ではどの程度広まっているのか。
- 【神奈川県】 まだそれほど大きくは広がっていない。川崎市内では今年のハウスが5～6軒程度で、黒川東地区の方に生産してもらえよう働きかけているところだ。
- 【農地課】 セレサモスでは5個ぐらい入って200円くらいで売っていた。
- 【神奈川県】 同じ量を300円くらいで売られるようにしたい。
- 【農地課】 この部会をどのようにしていくのかにつながるのだが、提案会の開催自体どうしようかと思っている。黒川地区に限った提案会を行っても参加者は少ないと思われる。しかし、第1回で話に上がったように、農家の方の話を聞いた上で動き出した方が良い。大勢いる中では発言出来ない人もいるので、どのような需要があるのか個々にお話をお伺いして、空回りしないように進み方を考えていきたい。
- 【神奈川県】 提案会については、何の作物を提案するのも重要ではあるが、今後それをどのようにしていきたいのかという考えをきちんと持っていないといけない。柿生の直売会では、誰かが新しい作物を取り入れると、次の人は「その作物はその

人の作物だから」という事で、その作物に手を付けないという暗黙の了解があるようで、そのような生産調整では、後から入った人は作る作物が無いという状況が生まれてしまう。みんなで少しずつ作り、何処か大口のセレスモスのような直売所で特産品として販売したり、品質の底上げを行う提案をするというのであれば受け入れられると思うが、何か1つのマイナーな作物の紹介をする事は農家に受け入れられないと思う。例えば、ミニニンジンなどは面白いとは思いますが、どのような提案をするのが重要になると思う。

【神奈川県】 目的として、これからそれを黒川のブランドにしていこうとしているのか。ブランド産地化するというのであれば、収穫量や、価格、作付面積、農業者の数等の計画をして、ブランド化して市場に打ち出すのが通例である。ここに挙げられている作物についても、ある程度は始めの絵図が無いと動きにくい。農業者であっても魅力が弱いと思う。試作から収量、収益を出していくべきである。

【農地課】 きちんと目標を決めていかなければならない。今のところ、農家に対しても黒川の特産物をつくりたいという話はしているが、目標値等はお示していない。そのような点から受け入れられないといのかも知れない。

【神奈川県】 ある程度絵図が描けていけば、農業者の方から食いついてきてくれる。その食いつかせる餌になる絵図をしっかりと作らないといけない。農作物の機能が分かり、消費者が確実に買っていき事が分かれば、農家の方も、どんどん面積を増やして生産していく。最初からブランドにしなくても、10年続けばブランドになる。

加工品を行うのであればある程度の収穫量か、加工品用の生産が必要である。生鮮品と加工品の両方を同時進行するのは、難しいと思う。

【農協】 セレスモスにはブロッコリーを使ったドレッシングがあるが、そのような形で加工して販売していけば良いと考えている。また昨年「のらぼう菜」について、地産地消連携協議会で研修会、試食会等を行っていて、引き合いもあるので連携していける。

【農地課】 「のらぼう菜」は色々な所でつくられています、どのような状況か。

【農協】 今は昔よりも麻生区の方が生産者は多いが、麻生区の「のらぼう菜」は品質が劣るという事で、講習会を開いている。次第に品質は上がっていくのではないかと。

4. 平成 27 年度のデザイン祭（プレ）について

<平成 27 年度のデザイン祭（プレ）についての資料説明>

【農地課】 農産物等研究専門部会では、急がず3年間かけてきちんと積み上げていく一方、デザイン祭(プレ)に関しては協力していこうと思う。それに伴って、農家の方にご協力頂き、農家の方の土地の中でイベントを行っていくような形でイベントを行いたい。

【麻生区】 「農場」、「セレスモス」、「青少年野外活動センター」、2つの「駅」を拠点としている。黒川の地域を活性化させるのが目的なので、このエリアで農業に従事されている方と、住民と一緒にこのイベントを作りたい。

【麻生区】 イベント当日にここに来られる方は、駅を使用する方が多いと思うので、小田急電鉄株式会社との協力を模索している。

【農協】 農協は、黒川では収穫祭と連携している。JAでは今「ふるさとの生活技術指導士」を派遣しているが、「ふるさとの生活技術指導士」の方は川崎市全域の方なので、先ほど話に出てきた女性農業者の黒川支部の方を巻き込んでいきたい。

- 【神奈川県】 面白いアイデアである。色々な人が色々な人と関わりを持つことによって新しい切り口を出していくという事が期待されていると思うが、それをコーディネートしていくのが難しいだろう。私は新潟の十日町の「大地の芸術祭」を連想したが、そこではアーティストが集落に住み込みをしながら、作品を作っていくという事を、“過程”も含めて行っている。関係者が多い中で、その方々を、どうやってお見合いをさせるか、その時間を持ってもらうかを丁寧に行っていかなければ、打ち上げ花火のように一発で終わってしまうと思う。
- 【農地課】 どのようなものを行う事が出来るのかを、今後検討していかなければならない。
- 【神奈川県】 確かに地元の大学を見ても、音楽はあるし、映画はあるし、工業はあるし、素材としては面白いと思う。
- 【農地課】 確かに麻生区にはそのような大学が固まっている。協力を得られている部分が多くあると思う。
- 【麻生区】 映像については、今後考えていかなければならないが、芸術に関していえば、学生主体で、地元の人たちとともに作品を一緒に作って頂けるのではないかな。
- 【農地課】 実際収穫祭では、昭和音楽大学の学生の方に来て頂いて演奏をして頂いている。
- 【コンサルタント】 十日町はプロの作品を置いているが、黒川では地元の方や、学生の方などで作っていく事を考えている。来て頂いた方の満足度も高めたいが、やっている側の満足度を高めたいと考えている。その作業の中で、色々な人を少しずつつなげていけたら良いと考えている。
- 【神奈川県】 地元参加の里山の文化祭というイメージか。
- 【コンサルタント】 そこに大学生や大学の先生を入れる事によって、良いものを作っていければいい。
- 【神奈川県】 お互い「このような人達だ」という、“お見合いの場”、“プレゼンの場”があって、「この人達なら、一緒にこんな風に取り組めるな」と思える場があった方が良い。おそらく農家で絵をかく人や、音楽をやる人などがいると思う。肩書で特性を判断するのは難しいが、そのような特性が見えてくると非常に面白いものが起こると思う。しかし、文化祭では、そこに行くまでが難しいと思う。
- 【麻生区】 この地域にいらっしゃる農家の方が、どのような事をやっていて、どのような方なのかそこを知るところから行っていかなければ上手くいかない。出来れば今年度の協議会の終了の頃から、地元に入って募集していきたい。
- 【神奈川県】 今回、明治大学の収穫祭で豚汁の配布を「ふるさとの生活技術指導士」の方で行う理由が分からない。組織としてある以上、意味のある事をして頂かないといけない。「ふるさとの生活技術指導士」が豚汁を配るのであれば、黒川の野菜を使い、野菜の由来や、食べ方のアドバイス等をすべきである。それをしないのであれば、黒川に住んでいる農業者の組織の方などをお願いして、地域を巻き込んで行った方が良いと思う。
- 【農地課】 これまでも、明治大学の収穫祭の中で地産地消協議会による豚汁の無償配布を行っていた。農協との関係の中でお願いしていたのだと思う。今回、この部会で話題となった事で、来年度は黒川支部の女性で行うという話になれば良いと思う。
- 【麻生区】 収穫祭での豚汁の配布や、農作物や加工品の販売で、「豚汁の中に入っている野菜の紹介」や「黒川ではこんなシーズンにこのようなものが採れる」というようなパネルを作ってはどうか。

【農地課】 「ふるさとの生活技術指導士」のパネルがあったら良いと思う。

【神奈川県】 「食べる技術を知りたい時は、この人たちはその技術をいかようにも指導出来る人なのですよ」というのが分かるように、「ふるさとの生活技術指導士」のパネルを出す事になり、のぼりも作ってもらうように依頼している。そこに黒川の野菜のパネルもあると良いと思う。

【農地課】 地産地消協議会には後で話をさせて頂く。

【神奈川県】 「「ふるさとの生活技術指導士」直伝の豚汁」とすれば良いのではないか。更に隣でその豚汁の具材に使っている野菜の販売を行えば、直につながる。

5. 総括

【座長】 デザイン祭はたたき台で、まだ3部会の中で検討させて頂く材料であり、農産物等研究専門部会はどのようにやっていくかという事の方が、この会議では重要である。先ほど、加工品の「味噌」と「テンペ」の話で私の名前が載っていますが、私は市民講座のコーディネーターを行っているだけである。市民講座の中の1コマとして「味噌づくり」と「テンペづくり」を行ったにすぎない。そして、その市民講座で感じたのが、今までは農産加工品と言うのは規格外品や多く出来過ぎてしまったものを使うというイメージだったが、特にテンペに関しては良い質の原料からでなければつくることが出来ない。したがってそのような高品質の大豆を黒川でつくれるのか、若しくは今作っている大豆がその品質に匹敵するのかという問題が生まれる。そのように良い原料を使うとなると、コストが高くなり、採算性もきちんと計算しなければならない。しかし、それが上手いき、黒川で価値のある原料が生産できるとなれば、生産の方も潤い、地域全体が良い方向になる。また、導入の部分で、「どのように農家の方に話を持っていくか」は非常に重要な問題である。地域の色々な関わり合いもあるし、黒川は1つの農業地区を作っており、川崎市の農業を支えている中で、汎用性のあるような作物を考えていかないと上手くいかないと思う。

導入の問題と、実際にそれを作っていく中など、課題は沢山ある事を感じた。それを乗り越えて、是非モノになるものを作っていきたい。部会員の方々には引き続きご協力をお願いしたい。

本日は今後どのような方向性でやっていくかが出てくるかと思っていたが、むしろ課題が出てきた。しかし、それはそれで良い事だと思う。本日で今年の活動が終わりではないので、もう少しじっくりと検討していきたい。

6. 閉会のあいさつ

【農地課】 20日に第2回目の協議会があるので、本日の皆様のご意見をとりまとめ報告させて頂く。この先のスケジュールについては11月8日に明治大学の収穫祭があるので、そこで発表等をさせて頂きたいと考えている。参加出来る人は是非参加して頂きたい。

ご意見等がありましたら、事務局までご連絡頂きたい。こちらからも皆様にご協力をお願いする事もあると思うがよろしくお願ひします。

本日の会議は以上をもって終了とさせて頂きます。ありがとうございました。

以 上